

小阪合遺跡

1984.2.18 現地説明会資料
(財)八尾市文化財調査研究会

1. はじめに

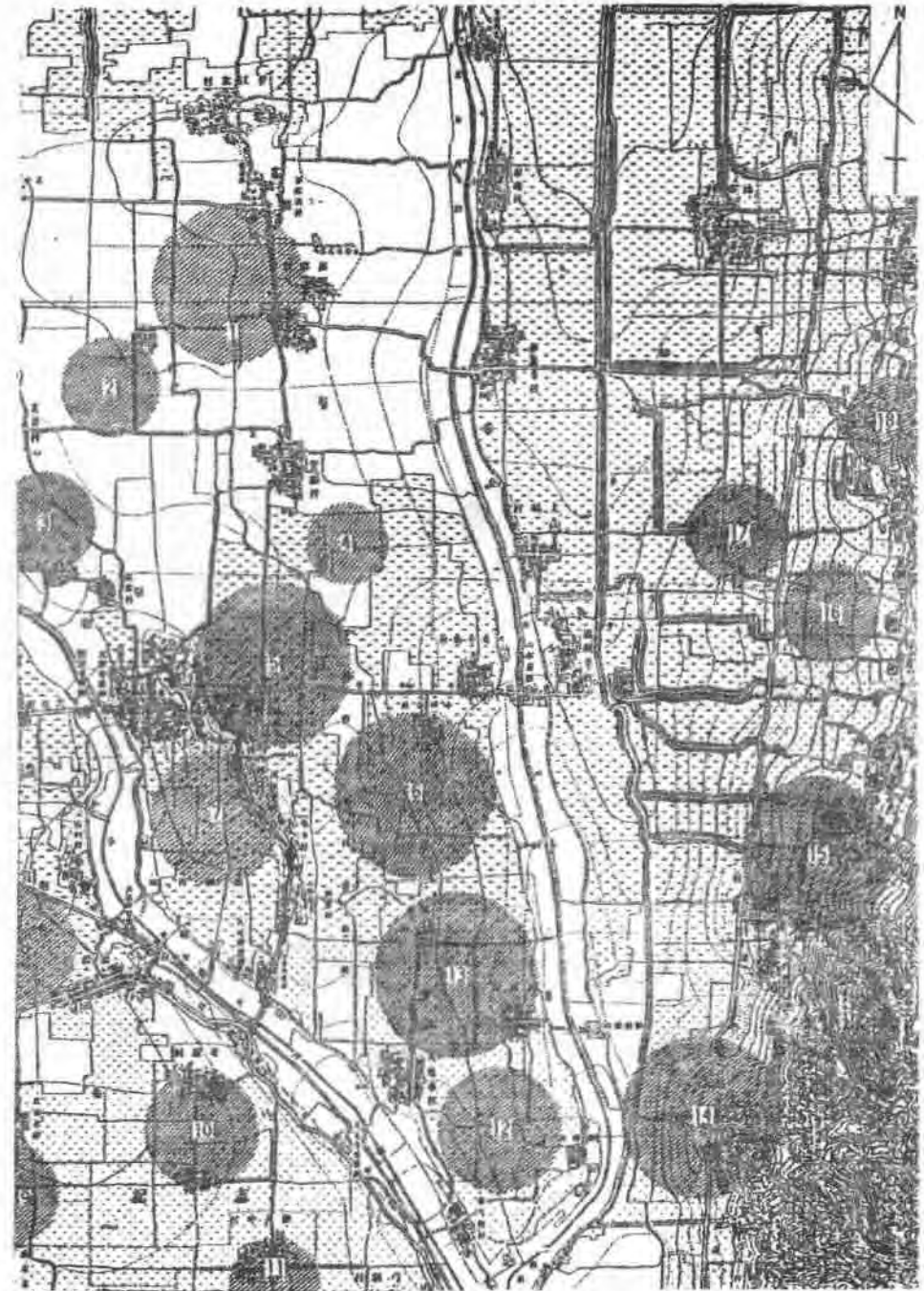
小阪合遺跡は、八尾市の中心部にあたる小阪合町・南小阪合町・青山町・若草町に所在する弥生時代～鎌倉時代の遺跡です。

当遺跡は、旧大和川の本流である長瀬川と玉串川に挟まれた標高(T.P.)9m前後を測る沖積地を占め、楠根川左岸に位置します。周辺の遺跡には、西に成法寺遺跡、南に中田遺跡、北に東郷遺跡・萱振遺跡などが同一沖積上に近接してあります。

当遺跡の調査は、八尾都市計画事業南小阪合工地区画整理事業に伴う道路敷面下の発掘調査で昭和57年度から八尾市教育委員会 の指示のもとに(財)八尾市文化財調査研究会が行っています。昨年度の調査では、弥生時代後期末・古墳時代・奈良時代・平安時代・鎌倉時代～近世の遺構・遺物が多数検出されました。今回は第2次調査として、昭和57年11月より発掘調査を実施しています。

2. 現在までの調査概要

今回の第2次調査は道路予定地内に2m幅でA～Fの8本の



- | | |
|------------|----------|
| 1 山内遺跡 | 10 老原遺跡 |
| 2 友井東遺跡 | 11 川井中遺跡 |
| 3 佐草遺跡 | 12 東戸間遺跡 |
| 4 萱振(西部)遺跡 | 13 中田遺跡 |
| 5 東郷遺跡 | 14 慈智遺跡 |
| 6 小阪合遺跡 | 15 徳川遺跡 |
| 7 成法寺遺跡 | 16 木越遺跡 |
| 8 植松遺跡 | 17 太田川遺跡 |
| 9 木の平遺跡 | 18 大竹遺跡 |

第1図 遺跡分布図

を設定して行なっています。調査面積は延べ1544㎡です。

現在までに、弥生時代後期末～近世の遺構面が4面確認されています。これらの主要な遺構・遺物について各時代ごとに概説します。

弥生時代後期末

調査区の東側（FトレンチとC・Dトレンチの東側）で表土下約1mに淡茶灰色粘土をベースとして切り込まれている土壌・溝・落ち込みなどが検出されています。特にDトレンチで検出された幅2.5m、深さ0.6mを測る南北方向の溝1からは弥生時代後期の土器とともに漁網に使用されるおもりと考えられる土鏝が数十個体出土しました。

また、この時代に埋設したと思われる幅100m以上の河川1がA・BトレンチとC・Dトレンチの西側で検出されました。

古墳時代前期

この時代の遺構・遺物は調査区の内ほぼ全体で検出されています。検出された遺構には土壌・方形周溝墓・溝・落ち込み、自然河川などがあります。

第1号方形周溝墓(第3図)はCトレンチの東隅で周溝のコーナー部が検出されました。周溝の幅約1.2m、深さ0.2mを測り

ますが、全体の規模は不明です。コーナー部の周溝底より供献されたと思われる壺が出土しました。

第2号方形周溝墓(第3図)はFトレンチの北寄りで周溝のコーナー部が検出されました。周溝の幅約1～1.5m、深さ0.3mを測りますが、全体の規模は不明です。この周溝墓には陸橋部がみられます。

また、Eトレンチの東側で検出された溝2は幅3m、深さ0.8mを測ります。溝中から壺・器台・高坏・鉢などが多量に出土しました。これらの中には器台を入れた壺形土器や吉備(岡山県)地方の土器、赤色顔料や漆が塗布された土器があり、祭祀的要素をもつ遺構であると考えられます。

Fトレンチ北寄りで検出された土器溜1は径0.8mにわたり土器の集積がみられますが、この中から銅鏝1点が出土しました。

古墳時代中期

C・D・Eトレンチの西側で河川2が検出されました。この河川は弥生時代後期末に埋設した河川の上を北西方向に流れていたと考えられます。

奈良時代

D・Eトレンチの東寄りとFトレンチの南寄りで井戸・建物跡などが検出されました。

井戸2(第4図)は一辺約0.8mの木枠の井戸です。長さ1.3m、幅0.4m、厚み4cmの板を一辺につき2枚あて、計8枚木枠として使用していました。その枠内に長さ0.8m、幅0.1m、厚み6cmの角材を組み合わせています。

東西3間の柱穴をもつ建物跡が2棟検出されました。(第5図)柱穴掘方の平面形は隅丸方形で、一辺0.6~0.8mを測り、中には径0.2~0.25mの柱根の残存するものもあります。建物の規模は不明です。

鎌倉時代-江戸時代

この時代の遺構として井戸・溝が検出されました。(第6図)井戸1はEトレンチの東隅で確認されました。井戸の底には曲物が1つ置かれていました。この井戸の中から鎌倉時代の瓦器碗・土師小皿が出土しています。また、全調査区で農耕に伴う東西・南北方向の溝が数十条検出されました。

まとめ

今回の調査地は八尾市青山町4丁目に所在し、中田遺跡に北接しています。

調査区は最初に述べたように、道路予定地内の限られた部分であるため、遺跡の規模や泉態は明らかではありません。

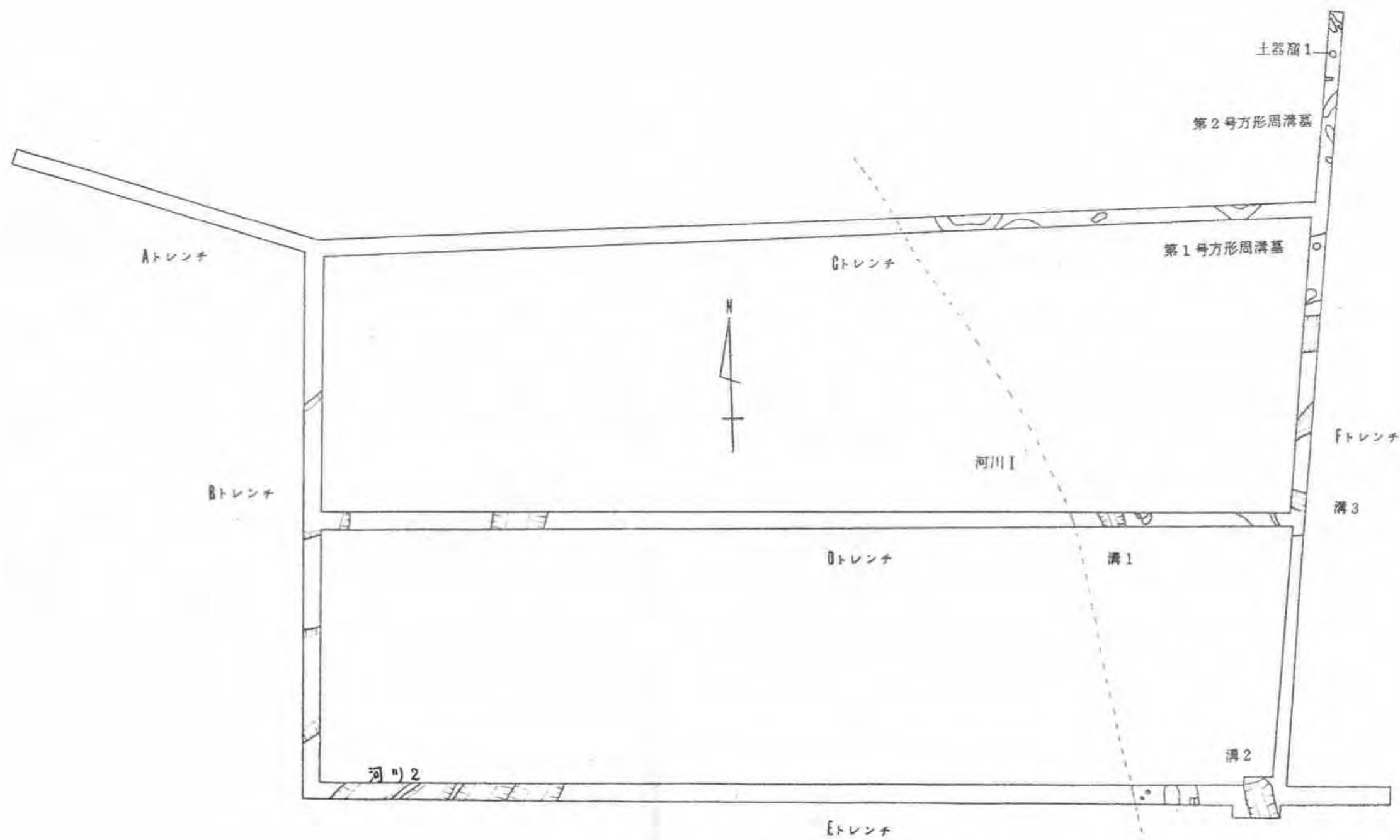
んが、現在までの調査で弥生時代後末へ江戸時代に至る各種の遺構が検出され、それに伴う土器などの遺物も多量に出土しました。

今後の調査・研究によって当遺跡と周辺の遺跡との歴史的関連を考える上での重要な資料になりえると言えます。

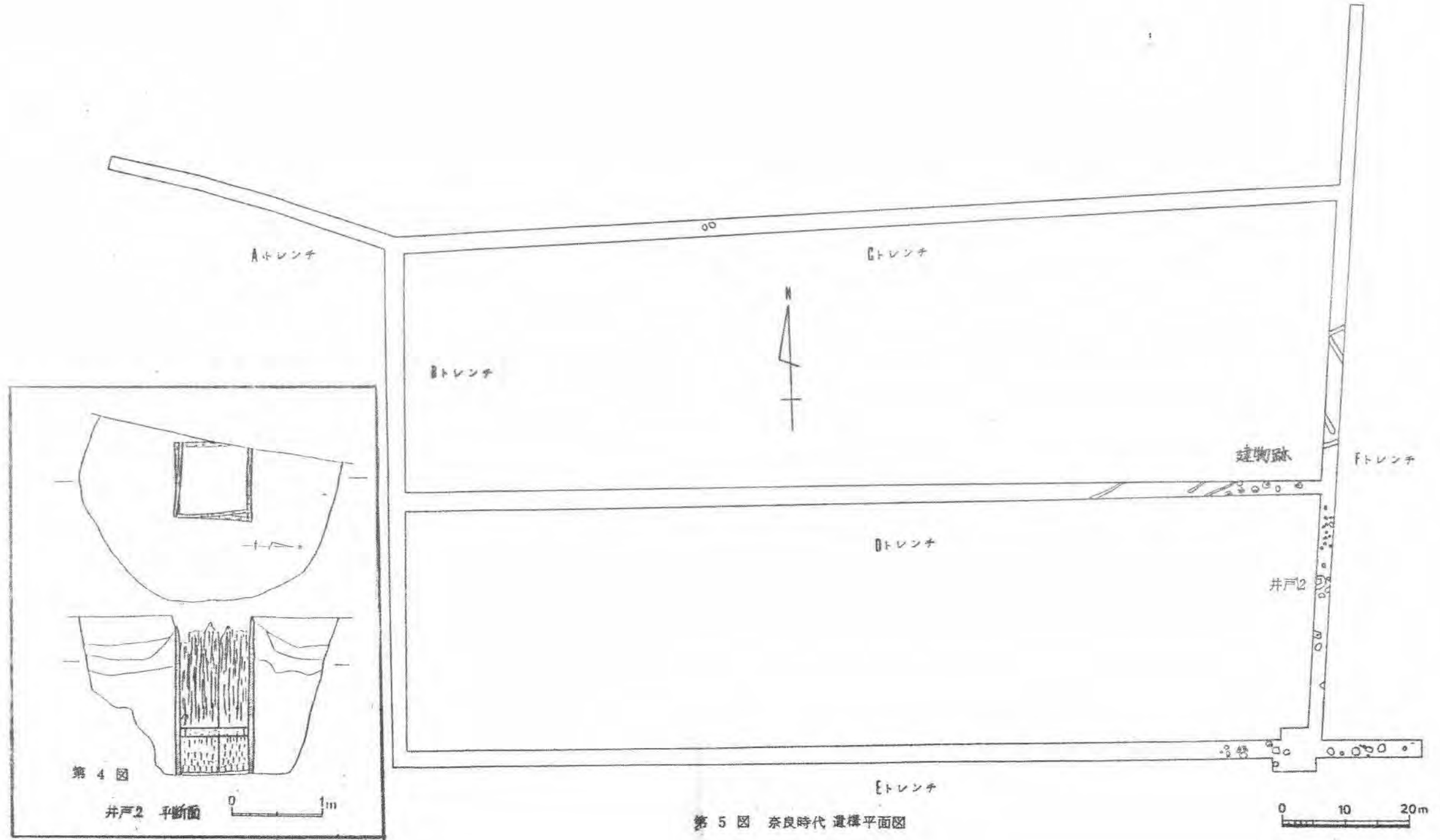


第2図 調査地位置図

0 200m



第 3 図 弥生時代～古墳時代遺構平面図



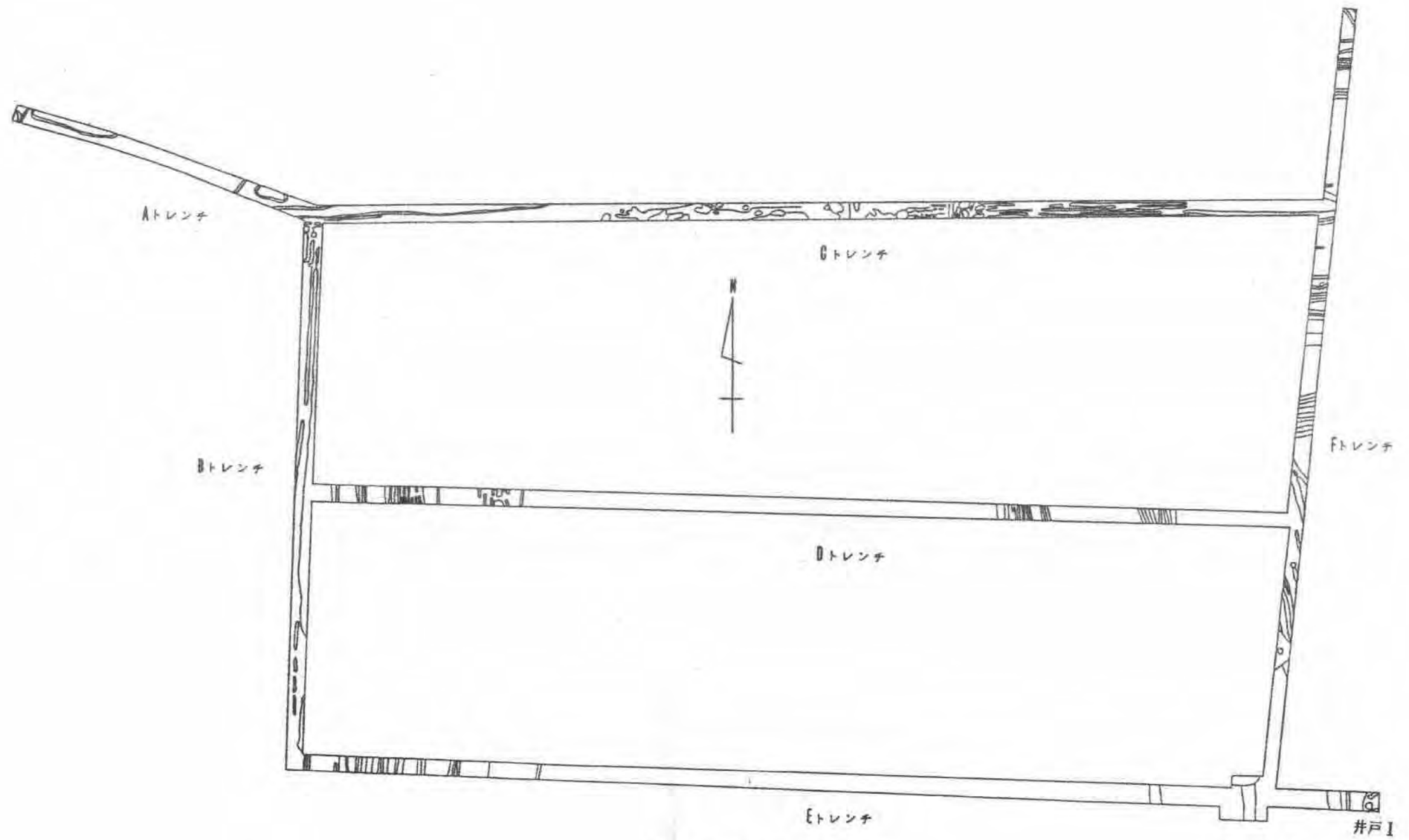
第 4 図

井戸2 平断面

0 1m

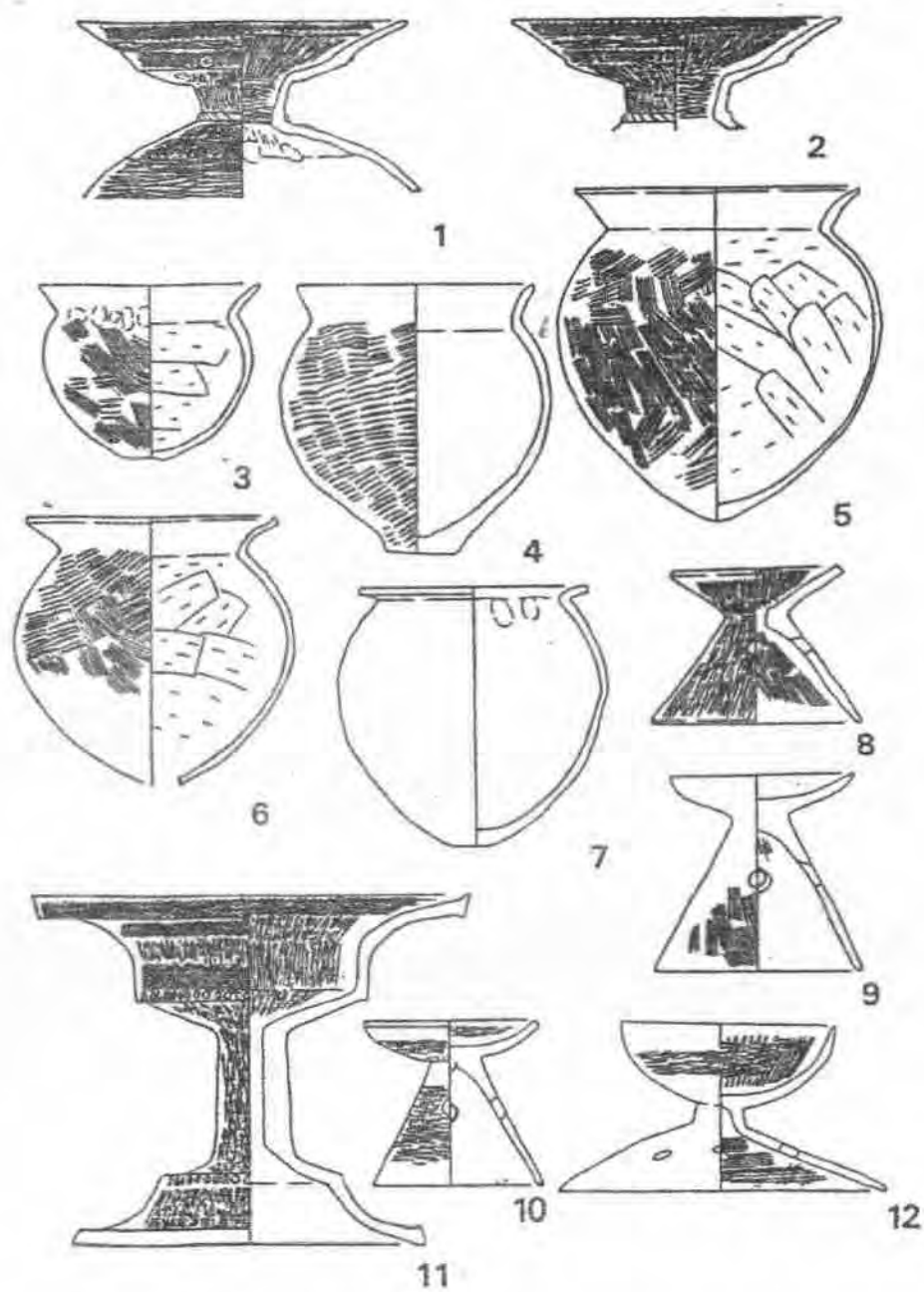
第 5 図 奈良時代遺構平面図

0 10 20m



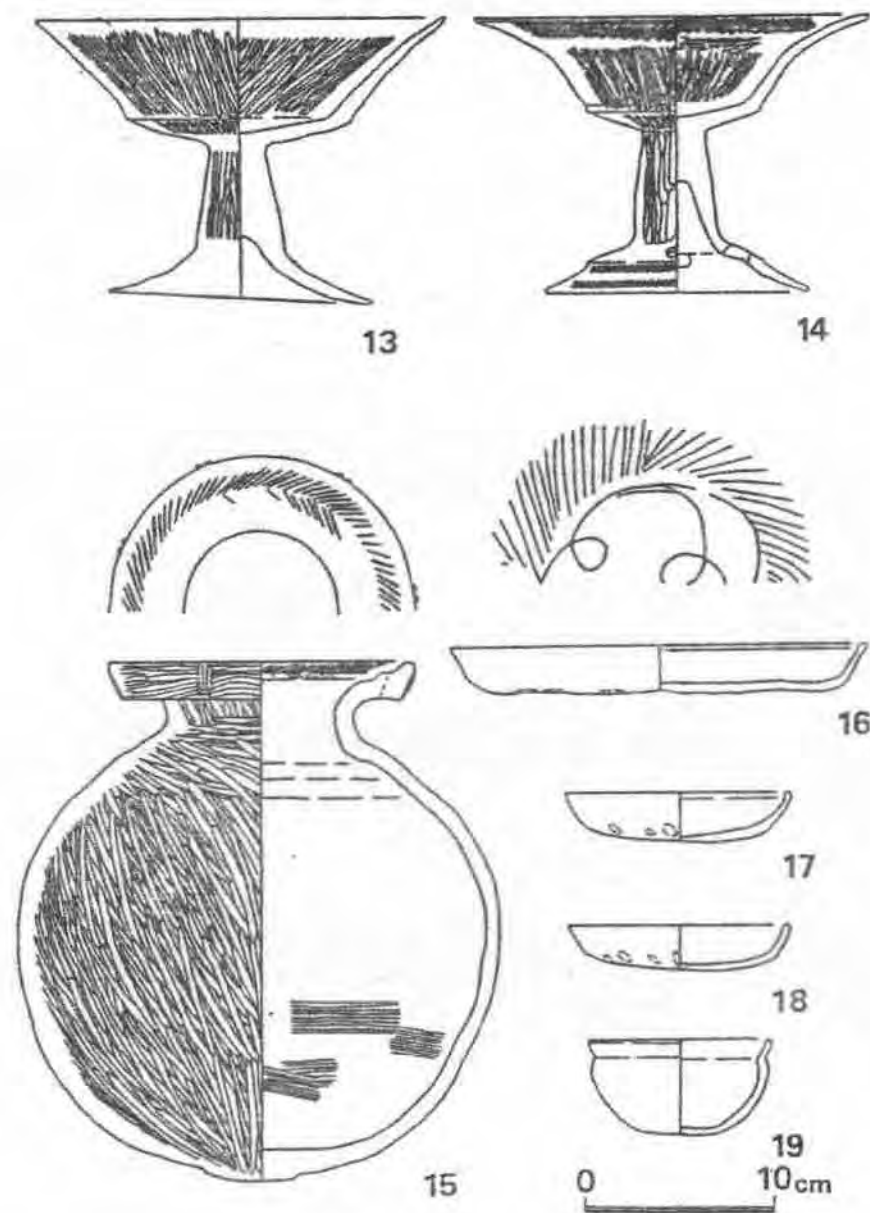
第 6 図 中世～近世遺構平面図

0 10 20m



古墳時代前期(庄内式,古相)の溝2 出土土器

1・2 広口壺 3～7 甕 8～11 器台
12～14 高杯



古墳時代前期(布留式,古相)の溝3 出土土器

15 登(東海系土器)

奈良時代の井戸2 出土土器

16～18 皿

19 鉢